

いる(表4)。自由回答でも、「心強く前向きになれた」「誰に相談したらよいか困ったので助かった」「複数の選択肢を提示してもらい、自分たちに合った道を選び進むことができた」という回答のほかに「なかなか入るところがない」といった長期療養先が決まらないことへの不安の回答もみられた。

調査の結果、3大疾病の患者は、その他の疾病に比べ、医療ソーシャルワーカーの退院・転院に対する援助に高い関連がみられた。特に今回の調査では脳卒中などの疾病は自宅へ退院をする患者もいる一方で、転院などのリハビリテーションや長期療養を必要とする患者も多くいることがうかがえる。患者の

年齢と相談内容の関係では、60歳未満の患者は60歳以上の患者より経済的な問題に対する相談に高い関連があり、60歳以上の患者は60歳未満の患者より介護などについての相談に高い関連がみられた。これには介護を必要とする年齢と療養先の選定の2つの要素が高いものと考えられる。また、今回の調査では、調査の回答者が子や配偶者からの回答が本人からの回答に比べ約2倍ほど高くなっている。これは、患者の高齢化により相談内容の半数以上を占めている転帰先の選定を進めるためのキーパーソンが本人から患者の子へと変ってきているためと推察できる。

地域連携の推進により、連携に関する援助への患者、家族のニーズが多くなり制度上も推進が予定されているが、長期療養が必要な患者の受け皿については安心できる見通しが立っているとは言えない。医学管理が必要でも報酬上の評価が低い患者や重症の患者は増加しているが転帰先のベッドは減少しており、制度自体も患者、家族には理解しづらいものとなっている。今後、さらに高齢化が進むなかで地域には一定の家庭復帰の困難な患者は存在し続ける。在宅サービスの推進だけではなく、各地域の実情に合わせた十分な量の療養先の確保は、地域で安心して暮らしていくためにも絶対に必要であると考ええる。

表4 相談結果

N 130

患者の年齢		相談内容(複数回答あり)					
分類	人数	気持ちが軽くなった	情報を知ることができた	他機関と連絡・調整できた	自分達で見通しがついた	相談は役に立たなかった	使える制度がなかった
0-19才	0						
20-59才	41 (31%)	9 (7%)	2 (1%)	17 (13%)	5 (4%)	0 (0%)	4 (3%)
60-74才	43 (33%)	21 (16%)	3 (2%)	25 (19%)	7 (5%)	1 (0.7%)	2 (1%)
75才以上	46 (35%)	19 (14%)	4 (3%)	28 (21%)	11 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	130	76 (58%)	16 (12%)	75 (57%)	38 (29%)	1 (0.7%)	6 (4%)

お知らせ

北海道医師会育英資金のご案内

◇総務部◇

北海道医師会では、会員または会員であった方のご子弟に奨学資金の貸付けを行っております。

この、育英資金制度の貸付者は、今日までに30余名の実績があり、すでに医学部を卒業し医学にご精励されている方もいらっしゃいます。

制度の概要を下記のとおりご案内いたします。

記

貸付の対象となる方は？

北海道医師会会員または北海道医師会会員であった方のご子弟で、家計状況、学業成績等から見て奨学のため資金を貸付するのに適当であると思われる者。

貸付期間は？

大学医学部および医科大学在学期間中

貸付金額は？

月額5万円～10万円
なお、貸付金は無利息です。

返還期間は？

医師免許取得3年後から10年間以内に原則月割りで返済。

申込み方法は？

北海道医師会会員から所属の郡市医師会を経由し、北海道医師会に申請してください。運営委員会の議を経て理事会で、申請者への貸付が決定されます。